

今聞けないケア知識Q&A

監修：有限会社ファイブアローズ あおぞらデイサービス水戸 管理者/介護支援専門員 岩下由加里

この連載では、通所事業所における日常的なケアやエビデンス、高齢者を理解するために必要な基礎知識について、「現場スタッフ」と「管理者」双方の視点から、毎回Q&A形式でわかりやすく解説します。



認知症の利用者の暴言・暴力には、 どのように対応したらよいのでしょうか？

認知症により暴言・暴力のある利用者とは接する際には、次の4つのポイントが重要になります。



土居健二
生活相談員の
回答

①情報を収集し、共有する

まずは、暴言・暴力が出やすい状況や本来の性格、ショックを受けた過去の出来事（親しい人との死別など）、好きなことや嫌いなこと、抱えている問題などの情報を事前に収集する必要があります。そして、暴言・暴力が出る状況を見極め、自施設で過ごしてもらう際に注意すべき点を抽出し、介護スタッフ全員に周知・理解させます。また、デイサービス利用中の様子から利用者の情報を得て、日々更新し、共有していくことができると、より効果的な対応ができるでしょう。

②トリガー（引き金）となる状況をつくらない

認知症の利用者が暴言・暴力へと至るまでには、いくつかの段階があるものです。利用者が怒りを感じる状況、すなわちトリガーとなる状況が、必ずどこかにあります。そのため、①で得た情報を基に利用者が「トリガーとなる状況」を努めてつくらないことが、とても重要となります。

③ほかの利用者への影響を避ける

ほかの利用者に対して暴言・暴力が出そうになった場合には、すぐに介護スタッフが間に入るなどの配慮をしなければなりません。そのために介護スタッフは、利用者同士のやり取りを見逃さないようにすると共に、現状から数歩先を常に予測しておく必要があります。

す。また、暴言・暴力のある利用者の爪を短く切るようにケアをしておくことや、殴ったり投げたりする際に用いられる可能性のある物品をそばに置かないことも大切です。

④肯定的な対応をする

暴言・暴力のある利用者に対しては、絶対に否定せずに肯定的な態度で接すると共に、事実はどうであれ非が介護スタッフにあることを謝ることが大切です。また、介護スタッフは味方であり、「利用者の存在そのもの」を常に大切に思っているということを、言葉や態度で示す必要があります。手を握る、背中を触るなどのボディタッチが有効である場合や、甘い菓子を勧めることで気持ちが切り替わる場合もあります。

暴力については男性スタッフが対応するのが望ましいと思われるかもしれませんが、男性が近づくと余計に興奮する場合もあるため十分な配慮が必要です。利用者自身が負傷しないように、利用者の行動と周囲の環境の関係性を瞬時に把握し、事故防止に努めることも非常に重要となります。

何げない一言に気を付けましょう

高齢者ケアの仕事をしていて、利用者の暴言・暴力の程度は、対応する介護スタッフによって大きな差が出るものだと常日頃から感じています。もちろん、教育をきちんと実施していくことで、どの介護スタッフも対応ができるようになりますが、意識せずに何げなく出た言動により、利用者の暴言・暴力が発生してしまうことも多くあります。

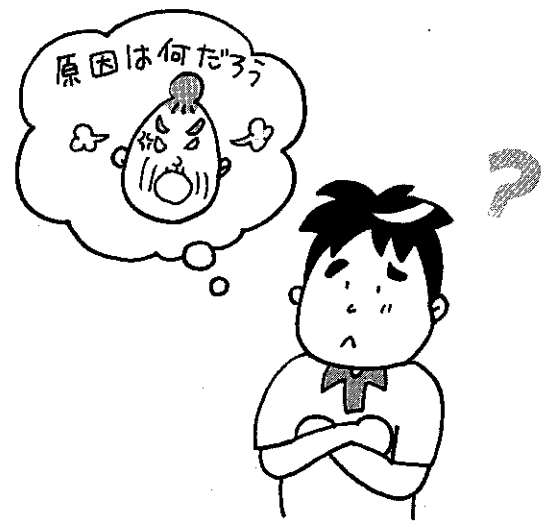
特に経験の少ない介護スタッフの場合は、利用者に対する接し方を体験しながら覚えませす。そうすると、上司や先輩から指導を受けていたとしても、まずは慣れるのが精いっぱいですから、自分自身の態度が認知症の利用者にどのような影響を与えるかまでは気が回りません。そのため、持って生まれたコミュニケーション方法で対応するしかないのですが、利用者を肯定的に受け止める対応を自然にできる人とそうではない人に分かれてしまうのが現状です。

■否定しないことが重要です

暴言・暴力のある利用者への対応は、土居生活相談員が述べている肯定的な対応の実践に尽きるのではないかと思います。多くの文献を読み漁りましたが、その結果今の私に分



岩下由加里
管理者の回答



かっていることは、「認知症の利用者が、どんなに通常の世間の常識から見て不思議でおかしな行動をしたとしても、その行動にはその人なりの理由が必ずある」ということです。ただ、その行動の起こし方が、通常の世間一般の常識で良しとされている方法ではないというだけのことなのです。

そのため、暴言・暴力が生じたとしても、それを制したり否定したりする言動を介護スタッフは取ってはなりません。介護現場では、「ダメですよ」「やめてください」などといった利用者の行動を制する言葉がよく聞かれます。もちろん、介護スタッフとしては暴言・暴力をやめてほしい気持ちがあるのは分かります。しかし、暴言・暴力をしてしまうその人なりの理由を探って、その原因を除去することに力を注いだ方が、結果としては暴言・暴力が少なくなるのです。

■ 精神疾患を伴う場合は医療との連携も必要です

認知症の利用者の中には、精神疾患を合併している方もいます。その場合は、妄想や幻聴などのように、介護スタッフの努力や工夫だけでは対応できないことがあります。医療との連携をきちんと図り、精神科の受診を促し、精神疾患に対する薬物治療を行ってもらわないと、ケアの力だけでは改善できない場合もあるのです。妄想や幻聴がある利用者の場合には、その妄想などが利用者自身を脅かすので恐怖を感じ、自分自身を守ろうとします。それが暴言・暴力として現れるため、介護スタッフがどんなに利用者を受け入れる行動を取っても、落ち着くことが難しい場合もあります。激しい暴言・暴力の場合には、介護スタッフだけで悩まず、医療との連携を取るよう努めてください。



デイサービスでできる フットケアの方法を教えてください



フットケアを行う前に考えなければならないのは、利用者の足が清潔に保たれているかどうかです。高齢になると、足を洗う動作が苦手になったり、汚れや傷を正確に認識できなくなったり、けがや巻き爪に気付かなかつたりと、足の清潔を保つことが困難になってきます。そして、不潔な状態が続くと白癬症やカンジダ症が発症し、さらに傷つきやすくなってしまいます。

そこで、まず行いたいのが、フットバス（足浴〈写真1〉）です。36～39℃のぬるま湯に、5分程度足を漬けます。終わったら、皮膚をこすらないように気を付けながら、指の間の水分を忘れずにしっかりとふくようにします。その際には感染を予防するために、利用者本人のタオルか使い捨ての紙タオルを使うのが好ましいです。また、足浴時には皮膚に傷や炎症がないかなど、足の状態をしっかりと観察しておくのも重要です。

足浴が終わったら、爪のケアを実施します。ここで大切なのは、巻き爪の防止です。爪をまっすぐに切ってから、角の尖っている部分のみを削ってカーブ（スクエアカット）にします。爪の安全を考えると、この時は爪やすりを使うのが最も良いと思われます。さらに、深爪にならないような工夫も必要です。指を横から見て、爪が皮膚の部分と同じ長さまで伸びている状態が、適切な足の爪の長さとなります。

そして、最後にマッサージを行います。マッサージクリームなどを使い、膝上5cm程度まで行うのが良いでしょう。マッサージには、リラクゼーションやリハビリテーションの効果が、さらに肺梗塞の予防にもなります。時間の許す限り、優しく続けるのがベストです。

フットケアは、簡単に行えて高い効果を得られるという特徴があります。爪白癬による巻き爪や感染症などを予防し、ひいては足の支持力を維持し強化するなど、「歩く」ことに直結した成果を表す

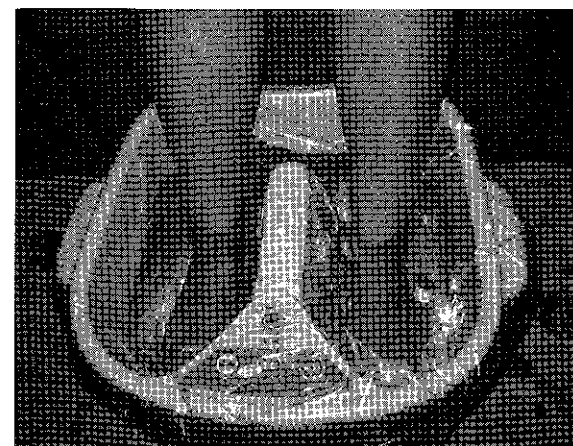


写真1 フットバス

ことができるのです。

このように、利用者の「歩行」活動を考えれば、フットケアは軽視することのできないケアだと言えるでしょう。

なぜフットケアが重要なのかを考えてみましょう

人間が歩くために、足の爪はとても重要な働きをしています。もしも私たちに足の爪がなければ、指先に力を入れて地面をグッと踏みしめることができなくなり、転ばず、安全に、素早く歩くことがとても困難になってしまうでしょう。フットケアをおろそかにしていると、爪を含めた足の機能低下のリスクが高まります。そのため、歩行という活動を支えていく上で、フットケアは重要な役割を持っていると言えるのです。

また、高齢になると、前屈ができにくくなったり、視力が弱くなったりするなど、足のケアが自分でできなくなってしまう原因が多くなってきます。すると、爪に支障が出たり、足の裏に魚の目ができたりしてもそのままにしていまい、痛みで歩けなくなるといった障害が生じやすくなるのです。特に、寝たきりや座りきりの高齢者はフットケアが不十分な場合が多いのが実情です。

■ 清潔を一番に考えましょう

田中介護スタッフが述べているように、まずは清潔が一番です。入浴介助の際にも、足の指の間や裏までもきちんと観察し、綺麗に洗うことが大切です。言葉で示すと単純で簡単なことに思えますが、「当デイサービスの利用者は全員綺麗な足をしています」と自信を持って言える事業所は何割あるでしょうか。高齢者だから皮膚が衰えていて綺麗ではなくても仕方がないと思われがちですが、手入れをきちんとしていけば、綺麗な足は夢ではないのです。清潔を保つことで、爪にできた小さな傷のほとんどは治りますし、巻き爪のように痛みを伴う場合でも、田中介護スタッフが述べているような爪の切り方と長さに注意をすることで改善します。

■ 爪白癬を見つけたら

爪白癬を伴っている場合は、皮膚科医に相談して白癬用の薬剤を使用する必要があるでしょう。薬剤を使用する際には、転倒予防も視野に入れ、クリームタイプよりも、ヌルヌルしない液状タイプを使用の方が望ましいと思われます。本来、爪白癬の治療には内服薬が効果的ですが、肝機能障害などの副作用が出る危険があり、高齢者への処方をおまなない医師が多いのが実情です。液状タイプでは完璧な治癒は困難かもしれませんが、見た目の改善は期待できるでしょう。爪白癬は、爪がどんどん厚みを帯びてきます。靴下を履く



岩下由加里
管理者の回答

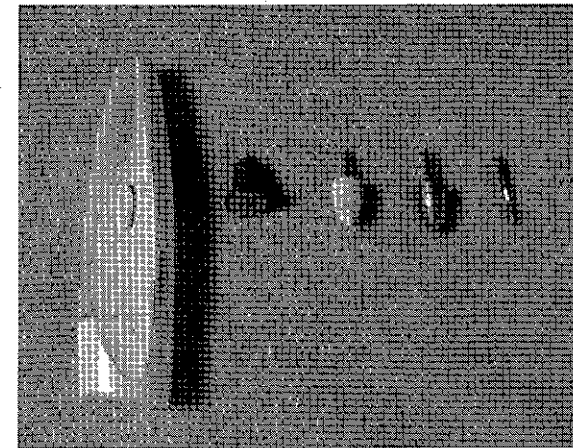


写真2 電動の爪やすり

のに邪魔になったりもしますので、電動の爪やすり（写真2）で削るといったケアも必要ですが、削り過ぎには気を付けましょう。

高齢者ケアの基本として、頭のとっぺんから足の先までを綺麗にすることで、さまざまな感染症を予防し、寝たきりや座りきりの防止にまでつなげることができます。清潔保持は、単に気持ちが良いといった気分的な問題だけではないのです。特に、足はどうしても汚染しやすい場所ですし、何と言っても人間が歩く上で大変重要な部分です。デイサービスで、通所のたびに足を観察し、綺麗にすることで、寝たきりや座りきり、そして転倒予防にもつながる介護を目指してください。

